

第 2 回 I C T 超高齢社会構想会議の開催結果

～ 会議で出された主な意見 ～

〔基本的な視点〕

- 現在の若年層が（自身の）将来の高齢者イメージを形成できるよう、世代を超えて提案できる超高齢社会モデルを提示できると良いのではないか。（清原構成員）
- 様々な取組を前に進めるためには、それが何にどのように貢献するのかを参加者に具体的に伝えることが重要。参加意識の醸成は利活用の大きな動機になりうる。（西村構成員）
- 高齢者を、アクティブシニアと、自立困難な高齢者に分けて考えるべき。アクティブシニアは健康の維持増進に、自立困難な高齢者は自立支援に、それぞれ I C T が活用でき、さらに新産業の創出にもつながる可能性がある。（武藤構成員）

〔現状・課題の整理〕

■ 諸外国の動向

- スウェーデンでは、当初、介護ロボットの利用に対し賛成が数%であったところ、ニーズに沿ったものにするための試行錯誤の結果、現在では社会実装がかなり進んでいる。日本は、モノづくりには高い技術を有しているのだから、利用者ニーズをくみ取り、改善を重ねながら社会実装に持っていくことが必要。（小宮山座長）
- デンマークでも介護ロボットの開発、実用化を進めているところ。介護費用の低減につながる介護ロボットの利用プロジェクトを政府が募集。社会実装に向けて、実際に介護施設で導入するといった取組を実施。他方、日本では、医療機器の開発・実用化には認定に時間がかかる等、様々な規制があり社会実装までなかなか進まないのが現状。まずはこうした阻害要因を整理することが必要ではないか。（徳田構成員）
- クラウドソーシングに関連し、現状では、仕事を発注する企業が限定的であることが課題。一方、海外では、デュポンや P & G 等、クラウドソーシングを利用した成功例があることから、こういった事例を分析することが有益ではないか。（広崎構成員）

〔推進すべき施策〕

■ 高齢者向け I C T システム・サービスの開発・実用化の推進

- 多くの無関心層に対し、I C T を使って行動変容を促すことは非常に重要な取組。現在の大きな課題はロコモ（ロコモティブシンドローム。運動器の障害により要介護になるリスクの高い状態になること。）であり、これは外側からは認識しづらい。ロコモ予防を進めるためにも、日常的な健康の維持管理は不可欠。（秋山構成員）
- 現在、高齢者マーケットに対する注目は高まっているところ。ユニバーサルデザイン等、高齢者視点と障害者視点とで重複するところが多く、両者の観点から検討することが有効。マーケットとしてみても、両者を合わせて考えることで利点が多いと考えられる。（浅川構成員）

○高齢者に適した機能やインターフェース等をガイドライン化することで、新たな市場の拡大の促進につながるのではないか。(浅川構成員)

○高齢者にとって使いやすい技術や製品の開発に向けた研究開発も重要。加齢による身体機能の低下をICTによって補う技術はすでにあり、こうした技術について、グローバルな実証実験などを行うことにより、日本の技術を世界に示すことができるのではないか。(浅川構成員)

○ユニバーサルデザインの普及のためには、国際標準の策定を日本が主導することも重要。(清原構成員)

○規制緩和の実現のためには、提供者側ではなく利用者側が主導することが重要。(西村構成員)

■ 高齢者のICT利活用の推進

○ICTのリテラシーについて、本人自らの努力だけでリテラシー向上が難しい場合は、誰が介在して補完する仕組みが必要ではないか。(武藤構成員)

○高齢者のICT利用にかけているのは、利用のきっかけ作り。自発的なICT利用を促すような仕組みが必要ではないか。(近藤構成員)

■ 高齢者を含む多世代共生モデルの確立

○「生涯学習」は重要なテーマではないか。必ずしも現在使われている「生涯学習」のコンセプトとは合致しないかもしれないが、例えば、高齢者が、教育支援者として若年層の教育や、行政サービスの改革、医療・介護・福祉サービスの改善に関わるなど、高齢者の持つ知見や知恵を活用できる場はたくさんあるはず。(清原構成員)

○最近、高齢者からの地域コンシェルジュ(日常生活で生じる様々な要望に応える人材)に対するニーズが高まっている。地域コンシェルジュが高齢者と地域をつなぐことにより、高齢者のコミュニティ参加の促進につながるのではないか。(浅川構成員)

■ 海外展開方策の推進

○アジア諸国でも今後高齢化が進展する中、リバースイノベーションの視点も持ちうるのではないか。つまり、ユーザーが真に求めているものは何かの追求が重要。例えば中国では、高価な最先端製品ではなく、精度は少し落ちてもいいから安価な製品を求めているということもあり、ニーズの正確なくみ取りが必要。(西村構成員)

■ 成果の普及展開の推進

○以前、「インパク(インターネット博覧会)」を政府主導でやっていたと思うが、「シニアインパク」のような取組の実施を提案したい。(近藤構成員)

■ その他

○一連のプロジェクトをWEB上でマッピングし、ハイパーテキストでリンクさせて一覧できるものを作成してほしい。(小宮山座長)